

よいことの
ために
手を取りあおう

- ◆国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツツォ (イタリア・ラゲザRC)
- ◆第2660地区ガバナー 吉川 健之 (大阪北RC)
- ◆クラブテーマ 「こっから、おもしろくなるよ!」

本日例会 2025年9月11日 (木) 第1011回

担当：クラブ運営委員会

卓話：「お酒のはなし」

金崎 正明 会員

○ 前回例会 2025年9月 4日 (木) 第1010回

1. 開 会
2. 国歌斉唱
3. ロータリーソング「奉仕の理想」
4. 四つのテスト唱和
5. お客様のご紹介
米山奨学生 宋 ハヌルさん
6. 会食
7. 幹事報告
 - 定例理事会報告
 - 1. 卓話依頼の件
依頼元：アクセプトインターナショナル
ZOOMで卓話を実施したいとの希望であったが、ZOOM対応していないため依頼しないことで承認。
 - 2. 10月親睦例会の件 (承認)
親睦食事は麗華で実施予定。麗華が予約不可の場合は、ループにて開催する。
 - 3. 地区大会登録の件 (承認)
現地参加とウェブ参加のハイブリッド開催のため、回覧を実施して希望を募る。登録は全員登録のため、欠席予定者はウェブ参加者として登録する。
トの件 (承認)
- 会議開催連絡
 - 9/6 (土) R財団セミナーが開催
小林国際奉仕兼R財団委員長出席
 - 9/10 (水) 第2回燦々会開催
水谷会長・元古幹事出席
- 事務局閉局連絡 9/8 (月) 有給休暇取得
- 9/11 (木) 親睦例会開催
親睦食事会場「やすべえ」
※アゴーラでの例会終了後に移動
※親睦食事会の出欠に変更がある場合は、
9/9 (火) までに事務局まで連絡を。

○新クラブ設立のお知らせ

I M第4組「八尾Gardenロータリークラブ」

例会場：八尾文化会館プリズムホール他

開催日時：毎月11日と22日の18:30~19:30

※該当日は土日になる場合は、変更あり

○回覧：地区大会参加申込回覧を実施

8. 出席報告 (会員総数15名)

9月 4日 出席 9名 欠席6名 出席率60.00%

メイクアップ報告

8月 7日 出席10名 欠席5名 出席率66.67%

(メイクアップ者 1名)

9. 会長の時間

10. 本日のプログラム

担 当：国際奉仕委員会

卓 話：「私の生花流派『山村御流』のはなし」

卓話者：小林 澄子 会員

11. 閉 会

○例会前の会合 9月度定例理事会

会長の時間

小学校5年生の塾の問題をお配りしました。
時間がありましたらぜひチャレンジしてみてください。

問題文：

りょうたさんとさつきさんがゲームをしています。1回ごとに、勝った人の持ち点には10点加え、負けた人の持ち点からは4点ひきます。このゲームに引き分けはありません。2人とも最初の持ち点が300点でゲームを始め、25回ゲームをしたとき、りょうたさんの持ち点が438点になりました。

①りょうたさんは何勝何敗でしたか。

②さつきさんの持ち点は何点になりましたか。

9月の例会休会日

9月18日 (木) 細則休会

9月25日 (木) 細則休会



次回例会 2025年10月2日 (木) 第1012回

クラブ親睦例会 (ノーマイカー例会)

卓話担当：会員組織委員会

卓 話

「私の生け花流派

『山村御流』のはなし」

小林 澄子 会員

私の生花流儀は「山村御流」という流儀で、家元は大和圓照寺の尼門跡と決められています。私が入門から門標を頂くまで14年間教えて頂いたのは御10代家元静山尼様で多くの人々に敬愛された方でした。

～ものごたり～

江戸時代のはじめ、108代後水尾天皇19歳の時に、徳川家康の孫である8歳の和子の入内が決まりました。家康は和子を後水尾天皇に嫁がせ、男の子を産ませ、その子が次期天皇につけば徳川家は天皇家と血縁関係になり、その後の天皇は徳川の血を継ぐ事になります。家康は天皇家の威光を借りる事で大名を従え、徳川家を永遠に天下の支配者にしようと考えたのです。しかし婚姻が決まり興入れする間もなく起こった大坂の陣、続いて家康の死去と4年が経ち、ようやく興入れ準備となりましたが、婚姻を回避し、徳川の血筋を入れまいと強く決心した後水尾天皇は恋人との間に皇子賀茂宮と皇女梅宮を設けておられました。それを知った2代将軍徳川秀忠は強く抗議し、後水尾天皇は対抗手段として譲位を申し出ましたが許しません。徳川幕府により、梅宮の母およつ様の実家四辻家の兄を始め、公家6名が処罰され、およつ様は出家させられ天皇から遠ざけられました。追い詰められた後水尾天皇は、使者となった藤堂高虎の説得を聞き入れ、和子との婚姻を受諾します。この世紀の政略結婚の為に、梅宮は誕生して間もなく四辻家と近い近衛家に預けられ幼児期を過ごしました。兄の加茂宮は4歳で亡くなります。その後寺に預けられていた梅宮は熱心に仏の道を歩まれました。後水尾天皇はご自分の離宮京都修学院に彼女の庵を結んであげました。その後大和八嶋に移転、その後近くの大和山村の里へ移転されたのが、圓照寺の始まりであり、今も山村御殿と呼ばれています。一方徳川和子様は公家と武家がこのような最悪の状況の中で、婚約から5年後の13歳で興入れされました。宮中では数々のいじめにあいながらも、その努力と思いやりの深さに後水尾天皇も心を開かれ、7年後に念願かなって高仁親王が誕生しますが、2歳の時亡くなってしまいます。次々に皇子を亡くされた後水尾天皇は、寛永6年11月8日幕府に何の相談もせず天皇の位を下りると宣言。次の天皇には和子との娘・女一宮（109代女性天皇明正天皇）を指名。幕府の望み通り、徳川の血を引く人物が天皇となったかに見えました。しかし、女性天皇は生涯独身で子供は産めない決まり。この先徳川と血の繋がりのある者が代々天皇になるという目論見は見事に阻止されました。後水尾天皇は次に皇子が生まれることを恐れて、皇女に帝の位を早くも譲り覚悟を示されました。その知らせに秀忠は激怒。そして天皇を島流しにするとまで言い出しました。和子は父・秀忠にあてて筆をとりました。娘からの切なる手紙に、秀忠の心は

動き「帝のお考えどおりになさればよい」と返事を出しています。

こうして後水尾天皇の譲位は危機一髪で幕府に認められ、天皇家の血筋は守られました。政治の世界から離れた後水尾院と東福門院和子ですが、譲位したとはいえ幕府の監視が緩むことはなく、少しの外出さえ自由にならない生活が続きました。そうした中、2人は新たに文化の世界で生きる道を見出します。後水尾院が力を注いだのは立花。花瓶の中で自然のありさまを表現するもので、現在の生け花に伝承されています。後水尾院は立花の会を御所で年に数十回も催し、花の世界を公家や一般庶民にまで広げました。この流れを汲んで始められたのが、私共の山村御流です。梅宮様は熱心にお花の道を進められました。又梅宮と呼ばれていた幼い頃からお父君について、臨済宗の高僧一糸分守様に師事し、俗塵に染まることを嫌われる気風でありました。一度、権大納言左大将鷹司教平に嫁がれましたが、3年後には寺に帰りたいたいとお父君に願ひ出られて許され、この度は剃髪して大通文智と法名を頂き、京都修学院に庵を結んで頂きお父君のもとで過ごされましたが、後に大和山村の地に圓照寺を頂き生涯寺を守られました。寺には後の代の為に文智女王が決められたこまごまとした法度や規律が伝えられ、圓照寺に入られたお代々の家元様は日々仏教と華道に厳しい修業をされておられます。私どもへの教えは日々の生活では「時間を大切にすること、物は無駄のないようにすること、おごらぬように心すること、真心込めてご用を勤めること」この4つの心得と、生花の流儀は「花は野にあるように」この二つが華道の道を歩む者が心掛けねばならないこととなっております。その後の圓照寺は和子様が徳川に願ひ出てください、300石の領地と1000石を与えられて、文智女王様は仏の道と花の道を進まれました。1667年和子様の最期を看取ったのは後水尾天皇と文智女王であったと京都泉涌寺の古文書に記録してあります。京都仙洞御所で行われた徳川家光17回忌追善の導師を文智女王が務めたと記録されてありますので、奈良や京都の僧侶や寺方にも認められる修業を納められた方であったのでしょう。そして藤堂家が長い期間にわたり、ご用を務め、寺を守っていましたが、私がお教えたいただいた御10代静山尼様の頃にはそう豊かではありませんでした。静山尼様は昭和天皇の妹君でありながら、三笠宮さまと双子でお生まれになり、数奇な運命を全うされ「悲劇の皇女」と言われました。三笠宮百合子殿下のお気配りで、お家元様は皇室の方々にお花を教えに行かれていました。静山尼さまがお亡くなりになった1995年4月12日は圓照寺の下馬の坂には桜花が散り敷いて、お弟子や僧侶様やお付きの方々の嗚咽が漏れ聞こえる涙のお別れでした。私が御十代家元静山尼様から最後に教授の免状下附をして頂いた弟子となりました。華名は「昭澄斎 錦歆」と頂きました。

（当日配布資料より抜粋）